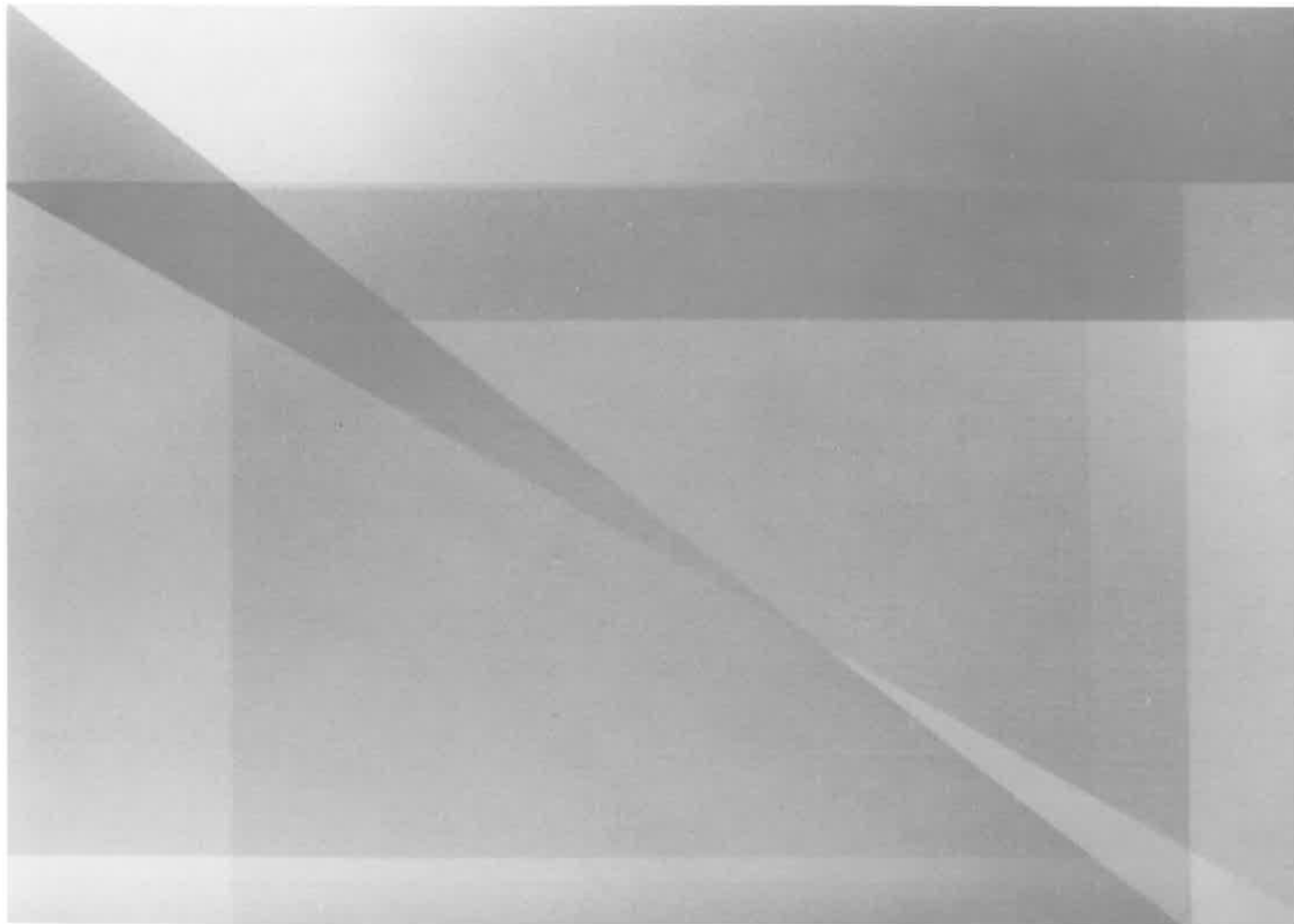


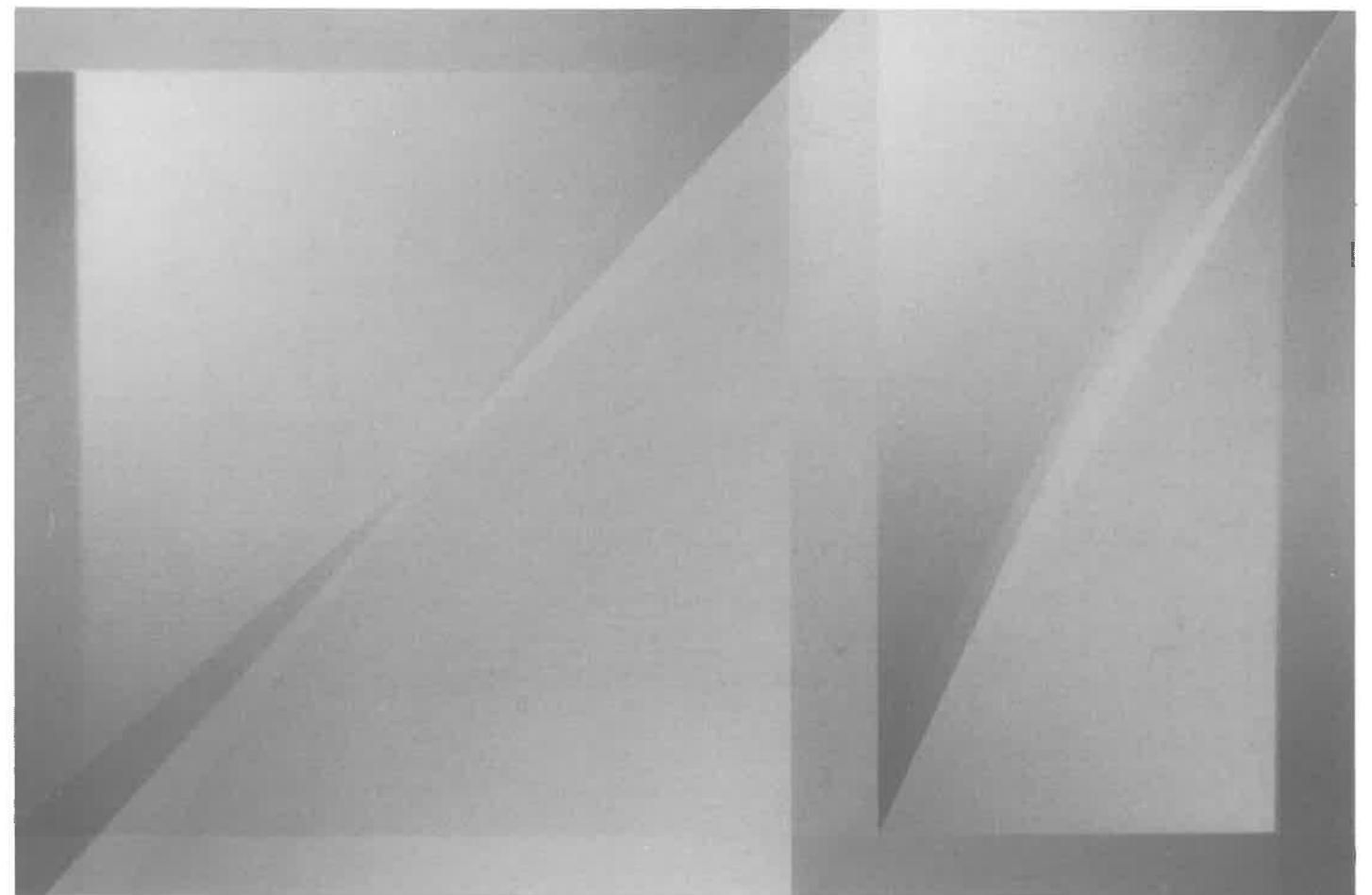
87企画-8 山内盛博 SUKIMA展

9月8日(火) - 10月4日(日) (月曜休廊)

GALLERY  TAKUMI



SUKIMA 63.6x44cm



SUKIMA 84.3x59cm

私達は日頃多くの物に囲まれて生活している。物は名づけられることによって私達の世界へ仲間入りをするといいだろう。このように言葉と物は対になっていて切り離せない関係にある、このような関係にあって言葉によって物や現実について記述したり話したりすることは容易なことだが、どんなに言葉を費やしても物や現実には近づかないだろう。

アートの分野ではリアリティーが重要な問題になってくるが、物について言語が決断を下すという図式ではリアリティーは得られないだろう。形耐上、形耐下をひっくり返してこそリアリティーはうかび上がってくる。そこでアートの役割はこの物と言語の接点にいかにかきかけるかということである。言葉と物の使いなれた一対一の対応を超えた関係を創りだすことがアートだということである。

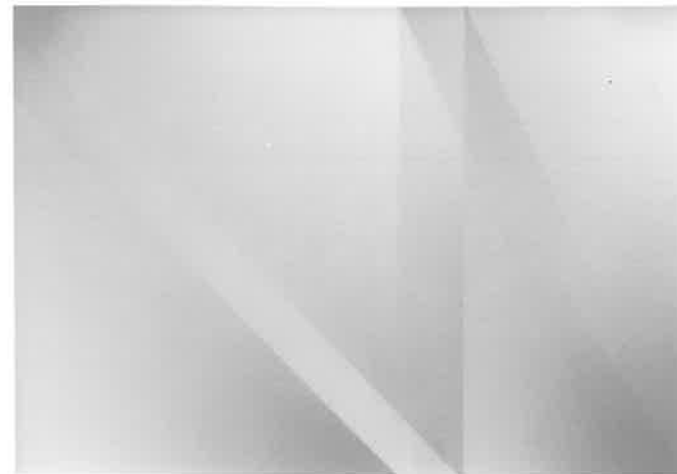
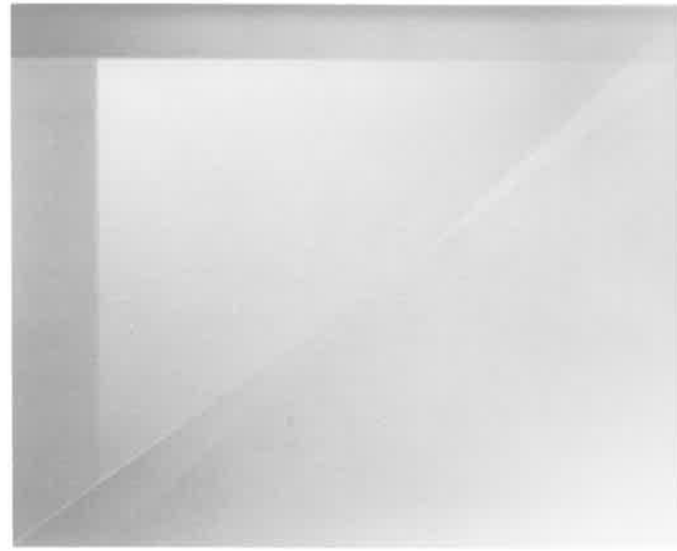
コンセプチュアルアートは唯一概念だけを操作することによってアートを成り立たせようとしたがそれが可能だったのはそれ以前に夥しい概念がつくられ世の中に蓄積してきてまるで物を使うように概念を素材として使うことができたからだと考えられる。

作品のタイトルをSUKIMAとしたのはこの言葉の概念が個体としての物をさすのではなく、二つの物の間をさす概念だからだ。物と言葉、作品と物、作品と作家、作品と批評など物と言語の接点にかかわる部分から作品を作っていきたいと思う。

作品にとりかかるプランニングの段階ではトレーシングペーパーを二枚重ねて色鉛筆で着色していくという方法をとるが、その方法では最初、上にあったトレーシングペーパーを下にして見ることもできるし、又裏から描いたりすることもできる。イメージとしては二枚のトレーシングペーパーの中に視覚が溶け込んでいるという感じである。平面作品を見る場合、又は描く場合、作品と観賞者、又は制作者の位置関係は一定である。つまり作品の正面外側にいる。このような作品との位置関係を変えることによって作品の質が変わってくるのではないだろうか。

色は原色にグラデーションをかけて使っている、形態と色は切り離せない、しかし表現したい形も色もないのでできるだけ曖昧なままにできるように材質と作品の形態を選びたい。

山内盛博



SUKIMA 84.3×57cm



SUKIMA 65×45cm